

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

官版

翻刻

語彙活語指掌

完

ホ. 2

64.

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19  
Taajima JAPAN



文部省刊行



官版 語彙活語指掌

大阪 龍文書肆藏版

活語指掌

明治七年八月十日



詞辭ノ辨

113  
64

言語のたたらを記さるるふふらあり其ハ詞の活用と辭

の運用となり詞と云ふハあふ物もふきくちる又あひ物も

ふきくちるあひ物もふきくちるなるをあらあひと物もふきくちる

も用言なりこれを心接けりての類あり辭と云ふハむてつけりら

むめりかなふをむとむもの類あり物もむむおひておも

ふらんおひへむむのむてらんむとむ辭なり餘ハむむら

て知るべし辭の運用のこと又其意味等ハ別記よ解也

詞の活用の數十四種ありまの十種を示す第一四段活

用第二一段活用第三中一段活用第四下二段活用第五加行

活語指掌







そ	将添	将寝	将捨	将瘦	将受	将得
そ	添	寝	捨	瘦	受	得
そ	添	寝	捨	瘦	受	得
そ	添	寝	捨	瘦	受	得

へ	ネ	テ	セ	ケ	エ
フ	ヌ	ツ	ス	ク	ウ
フル	ヌル	ツル	スル	クル	ウル
フレ	ヌレ	ツレ	スレ	クレ	ウレ

第四 下二段活用

本書活語の下ふキククルクレなどゝあるはたらが即こゝなり

お	将老	お	老
お	老	お	老
お	老	お	老
お	老	お	老

リ	イ
ル	ユ
ル	ユル
ル	ユレ

第三 中二段活用

お	将起	お	起
お	起	お	起
お	起	お	起
お	起	お	起

ミ	ヒ	チ	キ
ム	フ	ツ	ク
ムル	フル	ツル	クル
ムレ	フレ	ツレ	クレ

本書活語の下ふキキルキレなどゝあるはたらが即こゝなり

将居	将射	将見	将干
居	射	見	干
居	射	見	干
居	射	見	干

キ	ヒ	ミ	ヒ
キル	イル	ミル	ヒル
キレ	イレ	ミレ	ヒレ



五第 加行變格活用

本書活語の下ふエウウルウレ

ほめむ	将響	ほむ	響む	ほむ	響む
きこむ	将消	きこ	消む	きこ	消む
かむ	将枯	かむ	枯む	かむ	枯む
うむ	将植	うむ	植む	うむ	植む

エ | レ | エ | メ |  
 ウ | ル | ユ | ム |  
 ウル | ル | ユル | ムル |  
 ウレ | ル | エレ | ムレ |

六第 佐行變格活用

本書活語の下ふコキククルクレ

こむ	将来	こむ	來む	こむ	來む
きく	将来	きく	來く	きく	來く
くる	将来	くる	來る	くる	來る
クレ	将来	クレ	來れ	くる	來れ

コ | キ | ク | クル | クレ |

七第 本行變格活用

本書活語の下ふセシススルスレ

ナニ | ヌ | ヌル | ヌレ |

八第 良行四段一格活用

本書活語の下ふナニヌルヌレ

ナニ | ヌ | ヌル | ヌレ |

あむ | 有 | あり | 有 | ある | 有 | あれ | 有

ラ | リ | ル | レ |

作用言のうし第三中二段活用第四下二段活用第六佐行變格活用等ふらうへと今と活用のたぐひあり今との俗言の活用なり



第三 中一段活用俗言格

お	お	お	お	お	お	お	お	お	お
き	あ	ひ	ら	い	あ	ひ	ら	い	あ
起	落	戀	恨	老	起	落	戀	恨	老
お	お	お	お	お	お	お	お	お	お
起	落	戀	恨	老	起	落	戀	恨	老
お	お	お	お	お	お	お	お	お	お
起	落	戀	恨	老	起	落	戀	恨	老

キ	チ	ヒ	ミ	イ	リ
ク	ツ	フ	ム	ユ	ル
キ	チ	ヒ	ミ	イ	リ
ク	ツ	フ	ム	ユ	ル

本書活語の下ふキクキルキレはてきくやる即こまなり

圖面ふおきおくとひら假字りてあせむらひる今もかそらされたり

第四 下二段活用俗言格

え	け	せ	あ	そ	ほ	き	か	う	え
得	受	瘦	捨	寝	添	響	枯	植	得
え	け	せ	あ	そ	ほ	き	か	う	え
得	受	瘦	捨	寝	添	響	枯	植	得

エ	ケ	セ	テ	ネ	ヘ	メ	エ	レ	ウ
エ	ケ	セ	テ	ネ	ヘ	メ	エ	レ	ウ
エ	ケ	セ	テ	ネ	ヘ	メ	エ	レ	ウ
エ	ケ	セ	テ	ネ	ヘ	メ	エ	レ	ウ



本書活語の下ふエウエルエレたもろもろ一たもろ即こまなり

六 佐行變格活用俗言格

あん<sup>案</sup>あん<sup>案</sup>あん<sup>案</sup>あん<sup>案</sup>  
 將案 案 案 案  
 ジジズジルジレ

本書活語の下ふジジズジルジレとまろ一たもろ即こまなり  
 こまなりでの八種を作用言との次ふあぶる二種を形狀言とのふ

九第 クシキ活用

あき<sup>浅</sup>く あき<sup>浅</sup>① あき<sup>浅</sup>キ  
 ク シ キ

本書活語の下ふクシキとまろ一たもろ即こまなり

十第 シクシキ活用

シク シキ

本書活語の下ふシクシキとまろ一たもろ即こまなり  
 如此片假字<sup>カクカタカナ</sup>もてまろ一つてその詞ごの活用をまろ  
 ひされど初學の徒もろ見てのまろ一たもろ即こまなり  
 まろかき<sup>案</sup>く<sup>案</sup>け<sup>案</sup>①<sup>案</sup>せ<sup>案</sup>と順序をよみおろゆるなりこ  
 もをよみおろゆるに作用言總圖をあらわして次  
 示す 皇國言の活用い五十連音あだづらあやふらうのれを  
 用言の所生をまろせむとして作用言總圖とつづく  
 この圖をそらふもみおろゆるふまろがひしてまろかむさ  
 き<sup>案</sup>く<sup>案</sup>さ<sup>案</sup>け<sup>案</sup>とそららたて加行四段の活用なることまろ  
 おすいお<sup>案</sup>き<sup>案</sup>む<sup>案</sup>お<sup>案</sup>①<sup>案</sup>お<sup>案</sup>せ<sup>案</sup>とそららまろて佐行四段の活用  
 なることまろらあふまろらなり



作用言總圖

白字をうゑの活用する  
ありたり

阿行 アギヤウ

あ

い

う

え

を

加行 カギヤウ

か

き

く

け

こ

佐行 サギヤウ

さ

し

そ

せ

そ

多行 タギヤウ

た

ち

つ

て

と

奈行 ナギヤウ

な

に

ぬ

ね

の

波行 ハギヤウ

は

ひ

ふ

へ

ほ

麻行 マギヤウ

ま

み

む

め

も

也行 ヤギヤウ

や

い

ゆ

よ

よ

良行 ラギヤウ

ら

り

る

れ

ろ

和行 ワギヤウ

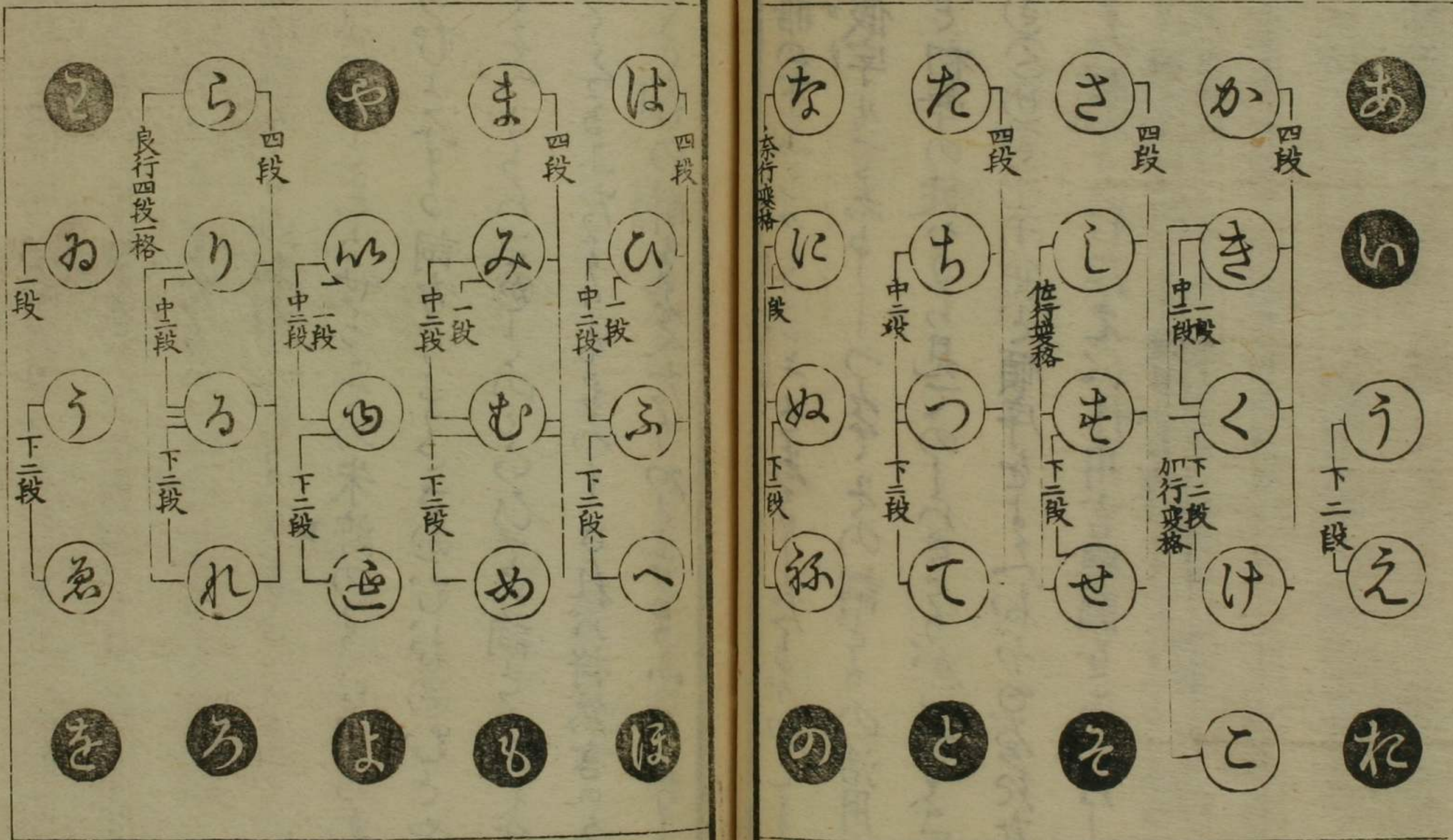
わ

お

う

ゑ

を



詩韻活字抄



次<sup>タ</sup>ふ活語指掌圖をあらはにして示すその由る上<sup>タ</sup>りあぐ  
 たら作用言總圖をおぼえ得たらむのち形状言のあらま  
 しをもおぼえむがためなり作用言と形状言とを志し  
 るも活<sup>ハタラヤ</sup>用<sup>ゴ</sup>ま一<sup>ニ</sup>たりいなふことなりとあらざらむ  
 きてこの圖をよみおぼえむよつきてこころうん<sup>ニ</sup>ききと  
 あり將然言と志せらるその朱線<sup>ニ</sup>のうら<sup>ニ</sup>つ<sup>ニ</sup>ま<sup>ニ</sup>ら<sup>ニ</sup>め<sup>ニ</sup>き<sup>ニ</sup>り<sup>ニ</sup>志  
 うあらむとする詞なりま<sup>ニ</sup>こ<sup>ニ</sup>さ<sup>ニ</sup>め<sup>ニ</sup>む<sup>ニ</sup>お<sup>ニ</sup>さ<sup>ニ</sup>む<sup>ニ</sup>と<sup>ニ</sup>や<sup>ニ</sup>う<sup>ニ</sup>み<sup>ニ</sup>む  
 の辭<sup>テニラス</sup>をそへ<sup>ニ</sup>こ<sup>ニ</sup>ら<sup>ニ</sup>せ<sup>ニ</sup>め<sup>ニ</sup>との<sup>ニ</sup>ひ<sup>ニ</sup>て<sup>ニ</sup>い<sup>ニ</sup>詞<sup>ニ</sup>と<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>ま<sup>ニ</sup>ず<sup>ニ</sup>ま<sup>ニ</sup>り<sup>ニ</sup>  
 よ<sup>ニ</sup>ら<sup>ニ</sup>ら<sup>ニ</sup>る<sup>ニ</sup>ふ<sup>ニ</sup>た<sup>ニ</sup>り<sup>ニ</sup>も<sup>ニ</sup>ら<sup>ニ</sup>ら<sup>ニ</sup>ら<sup>ニ</sup>れば<sup>ニ</sup>將<sup>ニ</sup>然<sup>ニ</sup>言<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>う<sup>ニ</sup>ぎ<sup>ニ</sup>り<sup>ニ</sup>い  
 こ<sup>ニ</sup>ら<sup>ニ</sup>む<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>辭<sup>テニラス</sup>をそへたりかく<sup>ニ</sup>ぎ<sup>ニ</sup>ま<sup>ニ</sup>ふ<sup>ニ</sup>よ<sup>ニ</sup>ら<sup>ニ</sup>む<sup>ニ</sup>ひ<sup>ニ</sup>得<sup>ニ</sup>ば

れのづら<sup>ニ</sup>ら<sup>ニ</sup>將<sup>ニ</sup>然<sup>ニ</sup>言<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>意<sup>ニ</sup>も<sup>ニ</sup>そ<sup>ニ</sup>や<sup>ニ</sup>く<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>ら<sup>ニ</sup>む<sup>ニ</sup>と<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>ら<sup>ニ</sup>む<sup>ニ</sup>れ<sup>ニ</sup>ば  
 ぞ<sup>ニ</sup>ら<sup>ニ</sup>ら<sup>ニ</sup>次<sup>ニ</sup>ふ<sup>ニ</sup>連<sup>ニ</sup>用<sup>ニ</sup>言<sup>ニ</sup>と<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>ら<sup>ニ</sup>用<sup>ニ</sup>言<sup>ニ</sup>より<sup>ニ</sup>用<sup>ニ</sup>言<sup>ニ</sup>へ<sup>ニ</sup>つ<sup>ニ</sup>づ<sup>ニ</sup>く<sup>ニ</sup>詞<sup>ニ</sup>る<sup>ニ</sup>も<sup>ニ</sup>こ  
 と<sup>ニ</sup>も<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>ら<sup>ニ</sup>ら<sup>ニ</sup>む<sup>ニ</sup>む<sup>ニ</sup>この詞よりあつ 用言へつづ さき よ ら ふ お し や そ そ の  
 詞<sup>ニ</sup>ご<sup>ニ</sup>と<sup>ニ</sup>ふ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>ら<sup>ニ</sup>む<sup>ニ</sup>たら<sup>ニ</sup>を<sup>ニ</sup>よ<sup>ニ</sup>み<sup>ニ</sup>つ<sup>ニ</sup>づ<sup>ニ</sup>けて<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>ら<sup>ニ</sup>む<sup>ニ</sup>は<sup>ニ</sup>終<sup>ニ</sup>止<sup>ニ</sup>言<sup>ニ</sup>と  
 り<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>ら<sup>ニ</sup>語<sup>ニ</sup>意<sup>ニ</sup>こ<sup>ニ</sup>ら<sup>ニ</sup>ま<sup>ニ</sup>て<sup>ニ</sup>い<sup>ニ</sup>ひ<sup>ニ</sup>を<sup>ニ</sup>も<sup>ニ</sup>ら<sup>ニ</sup>む<sup>ニ</sup>なり<sup>ニ</sup>連<sup>ニ</sup>體<sup>ニ</sup>言<sup>ニ</sup>と<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>ら<sup>ニ</sup>用<sup>ニ</sup>言<sup>ニ</sup>よ  
 り<sup>ニ</sup>體<sup>ニ</sup>言<sup>ニ</sup>よ<sup>ニ</sup>は<sup>ニ</sup>づ<sup>ニ</sup>く<sup>ニ</sup>詞<sup>ニ</sup>たる<sup>ニ</sup>か<sup>ニ</sup>も<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>ら<sup>ニ</sup>む<sup>ニ</sup>か<sup>ニ</sup>ら<sup>ニ</sup>む<sup>ニ</sup>なり<sup>ニ</sup>この詞よりあつ  
 さ<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>花<sup>ニ</sup>お<sup>ニ</sup>車<sup>ニ</sup>と<sup>ニ</sup>體<sup>ニ</sup>言<sup>ニ</sup>と<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>ら<sup>ニ</sup>用<sup>ニ</sup>言<sup>ニ</sup>よ<sup>ニ</sup>ら<sup>ニ</sup>む<sup>ニ</sup>詞<sup>ニ</sup>ご<sup>ニ</sup>と<sup>ニ</sup>ら<sup>ニ</sup>む<sup>ニ</sup>あ  
 る<sup>ニ</sup>ら<sup>ニ</sup>む<sup>ニ</sup>も<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>ら<sup>ニ</sup>む<sup>ニ</sup>み<sup>ニ</sup>つ<sup>ニ</sup>づ<sup>ニ</sup>け<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>ら<sup>ニ</sup>む<sup>ニ</sup>を<sup>ニ</sup>ひ<sup>ニ</sup>て<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>ら<sup>ニ</sup>む<sup>ニ</sup>一<sup>ニ</sup>已<sup>ニ</sup>然<sup>ニ</sup>言<sup>ニ</sup>と<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>あ  
 ら<sup>ニ</sup>む<sup>ニ</sup>も<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>ら<sup>ニ</sup>む<sup>ニ</sup>なり<sup>ニ</sup>たら<sup>ニ</sup>む<sup>ニ</sup>こと<sup>ニ</sup>を<sup>ニ</sup>い<sup>ニ</sup>ふ<sup>ニ</sup>詞<sup>ニ</sup>ら<sup>ニ</sup>む<sup>ニ</sup>花<sup>ニ</sup>と<sup>ニ</sup>ら<sup>ニ</sup>む<sup>ニ</sup>さ<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>車<sup>ニ</sup>  
 を<sup>ニ</sup>そ<sup>ニ</sup>と<sup>ニ</sup>お<sup>ニ</sup>せ<sup>ニ</sup>と<sup>ニ</sup>ら<sup>ニ</sup>む<sup>ニ</sup>又<sup>ニ</sup>花<sup>ニ</sup>さ<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>車<sup>ニ</sup>を<sup>ニ</sup>お<sup>ニ</sup>せ<sup>ニ</sup>ば<sup>ニ</sup>な<sup>ニ</sup>ら<sup>ニ</sup>む<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>類<sup>ニ</sup>なり<sup>ニ</sup>たゞ







語彙法言抄

六第 格變行佐 變為	五第 格變行加 來	四第 段 植枯消譽
せむ	こむ	忍む 礼む 世む めむ
しむ まむ	きむ まむ	はむ 素む 由む たむ
ぢむ	くむ	字む 万む 由む むむ
ぢむ 君業	くむ 人	字む 万む 雪む 事む 畝草 雪事
ぢむ	くむ	字む 万む 由む むむ

〇十

語彙法言抄

第 二下	第三 段二 中
添寝捨瘦受得	下老恨戀落起
へむ 糸む てむ せむ けむ えむ	りむ 以む みむ ひむ ちむ きむ
ねむ やむ やむ おとむ ともむ そむ	かむ かむ かむ ちむ つむ つむ
ふむ ぬむ つむ ちむ くむ うむ	るむ 由む むむ ぶむ つむ くむ
ぢむ ぢむ ぢむ ぢむ ぢむ ぢむ	ぢむ ぢむ ぢむ ぢむ ぢむ ぢむ
物床物身物寶	人下身事人葉人
ぢむ ぢむ ぢむ ぢむ ぢむ ぢむ	ぢむ ぢむ ぢむ ぢむ ぢむ ぢむ



九第	八第	七第
きしく 深 浅	格一段四行良 居 有	格變行奈 死 往
く なむ	ら む	な む
し	り まき	に うする
き 心	る 人	ぬ 命
けれ	れ	ね ぬれ

これまの八種を作用言とらふ  
これより二種を形状言とらふ

ねのこしら  
別記云べし

十第
きし 悲
く あむ
し
き 事
れ

上ノ舉たら指掌圖をのつくつゝあぢらむむつては其俗  
 意をあらでんすやかよ心得ごとさるやうして十種活用  
 おしあてて俗意をあてて童蒙のたよりとす但し連體言ハ  
 結詞カスビコトハ結辭ムスビコトハとハ係辭カケコトハをむきぶとれの名なりされどそのことハ今こふ  
 さしあてずたゞつてあて圖面の俗意をあらを要とれりあて  
 まるものゝ俗解せりさうんさく花おす車などいひつゝる  
 類ハいふも今もあらることなくして別ふ俗解まぶる



あらざるべし

又々ふ心うぶきこと終止言をかりふ輕と記して示す連體言ハ重と記して示す一段活用一段活用ハ終止と連體とをかりて圖せれば早く見らむとありくよく讀て味あるべし

段 四 行 加	
將然 さ(カ)ウ	サ(カ)ウ
連用 さ(キ)ヒ	ヒ(カ)ウ
終止 連体 さ(ク)	サ(キ)マス
已然 さ(カ)ア	サイ(カ)ア

りやまらふらま  
みぢやまらふらま  
雨日のうちふ花がサ  
カウ

今日の花がさうら  
大さうさ(キ)ヒ  
ス

輕風はまわら花ハ  
サキマス  
重あづさうら  
花があまら  
子サクワイ

きのふと花ハサイ  
タカマア

段 四 行 多		段 四 行 佐	
將然 た(カ)ウ	タ(カ)ウ	將然 お(カ)ウ	オ(カ)ウ
連用 た(キ)ウ	ウ(カ)ウ	連用 お(キ)ウ	ウ(カ)ウ
終止 連体 た(ク)	タ(キ)マス	終止 連体 お(ク)	オ(キ)マス
已然 た(カ)ア	タ(カ)ア	已然 お(カ)ア	オ(カ)ア

この車はたさう  
い車ヂヤマら  
だうオ(カ)ウ

たの車とみや  
かうくのそ  
チヤマス

輕道がまら車ハ  
オシマス  
重おも車ヂヤ  
あやうオスワイ

よそのその重い車  
をオシタカマア

かう風が吹て  
見て居ら  
サアくオ(カ)ウ

何事の出来たらん  
あの人ハ見物を  
けてた(カ)ウ

輕物をそら居られ  
た(キ)マス  
重マ(キ)マス  
ウ(カ)ウ

其場をそら  
ぞ志ら(カ)ウ  
マア



波行四段

麻行四段

將然 <b>あはむ</b> アノウ	連用 <b>あひみ</b>	終止 <b>あひ</b> アヒマス アフワイ	已然 <b>あひ</b> アヒガマア
いふくたあいたい こともあるがやぶ と明日茶屋でア ノウ	とてもあるがぬこ と思つたが今日ハ うまうあひみ ス	①まごめまごめ さいキヨツとアヒマス ②かさい約束やま まごめやうアフワイ	けあそそま アフタガマア

將然 <b>まむ</b> スノウ	連用 <b>まみ</b> まつる	終止 <b>まむ</b> スミマス スムワイ	已然 <b>まむ</b> スミガマア
このやうなきたる 家ふ水く居る氣 ハやぶがマアキヨツと スノウ	住まふたぐら 家ふ住で居てけ かくまふまみ てマス	①まごめまごめ さいキヨツとアヒマス ②かさい約束やま まごめやうアフワイ	今までそそま てこの家ふスミガマ ア

良行四段

加行一段

將然 <b>ふむ</b> フノウ	連用 <b>ふみ</b> ふつる	終止 <b>ふむ</b> フリマス フルワイ	已然 <b>ふむ</b> フリガマア
たのさう雲が 來たがヤアて大雨 ダフノウ	まろふらふらつて大 雨がふみきマス	①後ふまふま が一度ハフリマス ②ひまふまふま このやうにフルワイ	夜の間あそまの やうふ雪がフツガマ ア

將然 <b>きむ</b> キノウ	終止 <b>きむ</b> キマス キルワイ	已然 <b>きむ</b> キタガマア
秋風がたぐく しくなつたがヤ 裕をキノウ	①衣服が出來たら キマス ②重さのあひや 衣服やこれのやう キルワイ	若き時こそこのやうな ちで衣衣服もキタガマア

連用 **きむ** ちらむ

あたらしい衣服も  
なうてきまう一兩日  
ちらむ

吾部活計才掌



奈一行一段

將然 ⑬む ⑭ヤウ

先生のねむむを見を  
しうなら後より⑬ヤウ

連用 ⑮かまふ

先生のふりを見をらそ  
居る故に講釋のふりぞ

將然 ⑯む ⑰ヤウ

大きうよい天氣がマとの日  
よりならほけりのぞう

連用 ⑱からぶる

天氣がよゆうら陰はしあ  
たふ思ふし⑱からぶマス

終止 ⑲ 二マス  
ニルワイ

講釋のふりをあぶそ  
故なく先生ふニマス  
重骨折たそそて先生の  
講義ふりにあはるのそ  
ニルワイ

終止 ⑳ ヒマス  
ヒルワイ

天氣がよゆうらほけりの  
が今日よりくヒマス  
重晴天ふつと故に物  
があれあのやうふヒルワイ

已然 ㉑ヒル 二カマア

先生のを見をらそ  
こそ講釋のふりぞ  
ガマア

已然 ㉒ヒル 二カマア

天氣がよかつとらこそ  
乾物がよくとヒカマア

麻一行一段

將然 ㉓む ㉔ヤウ

その書もみる書癖ぞ  
今日見ると明日ハ⑬ヤウ

連用 ㉕あきらむる

書夜つとあてよんぞ故む  
かふ書やとてちちまむ

將然 ㉖む ㉗ヤウ

弓を射たいのぢヤガの  
がこそてならぬひまを見

連用 ㉘よほす

弓射とらわいのハあそ  
りのぢヤ癖も甲も⑬よほ  
マス

終止 ㉙ 二マス  
ミルワイ

今日ハひまぢヤふつて  
書やヒマス  
重此書ハありふの書ヤ  
からこれよあふヒルワイ

終止 ㉚ イマス  
イルワイ

下手でハあが尺貳の  
ちらヒマス  
重遊者ハあればかけ鳥  
もこそそのやうイルワイ

已然 ㉛ヒル イカマア

尺貳の的であはるこそ  
くイカマア

已然 ㉜ヒル 二カマア

今日こそあくまで書物を  
ミカマア

五上京古語指掌



三原六言才掌

和行一段		加行二段	
將然 <small>あむ</small>	牛ヤウ	將然 <small>あきむ</small>	オヤウ
終止 <small>あむ</small>	キマス	終止 <small>あきむ</small>	オキマス
連体 <small>あむ</small>	キルワイ	連体 <small>あきむ</small>	オキルワイ
已然 <small>あむ</small>	オキマス	已然 <small>あきむ</small>	オキマス
已然 <small>あむ</small>	オキマス	已然 <small>あきむ</small>	オキマス

世話みなるのへ至つて氣のどくぢやまぢまぢなりのぬ  
あの人ハつとあぢまぬぬあ  
なぬぬハ氣をぬんぢぢぢぢぢ  
あつぎマス

夜があくことあむ  
ワールまろくのへオ  
キマス

夜があくことあむ  
キマス

いそがしつう早朝  
ふいふいこのやふオ  
キルワイ

用事があぢぢぢぢ  
早くオキマスガマア

多行二段		波行二段	
將然 <small>あむ</small>	オヤウ	將然 <small>あむ</small>	コヤウ
終止 <small>あむ</small>	オキマス	終止 <small>あむ</small>	コヒマス
連体 <small>あむ</small>	オキルワイ	連体 <small>あむ</small>	コヒルワイ
已然 <small>あむ</small>	オキマス	已然 <small>あむ</small>	コヒマス
已然 <small>あむ</small>	オキマス	已然 <small>あむ</small>	コヒマス

柿がたいさううんぢ  
来たぢぢぢぢぢぢぢ  
つたらオヤウ

落匠まろことあむたぬ  
いぬの手ヤまらつてあむ  
木の葉がまらつてあむ

子供ああぢぢぢぢぢぢぢ  
あなつてあぢぢぢぢぢぢぢ  
コヒヤウ

親のぢぢ子あぢぢぢぢ  
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
てコヒマス

あぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
コヒマス

察してあぢぢぢぢぢぢぢ  
あぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
やうにコヒルワイ

昨夜の大風があぢぢぢ  
まぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
たぐまんオキマスガマア

あぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
まぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
兩三日コヒマスガマア

吾妻新編



麻 中行 二段

將然 <sup>ウラ</sup> <sup>ウラ</sup> <sup>ウラ</sup> <sup>ウラ</sup>  
 夫の心が薄情ギヤと  
 みえて女房が毎日々々  
 ウラ <sup>ウラ</sup> ヤウ

終止 <sup>ウラ</sup> <sup>ウラ</sup> <sup>ウラ</sup> <sup>ウラ</sup>  
 うらむねとくしやも  
 うらむねとくしやも

連体 <sup>ウラ</sup> <sup>ウラ</sup> <sup>ウラ</sup> <sup>ウラ</sup>  
 あぢか不實也  
 うらむねとくしやも

已然 <sup>ウラ</sup> <sup>ウラ</sup> <sup>ウラ</sup> <sup>ウラ</sup>  
 そまごまごしやも  
 うらむねとくしやも

也 中行 二段

將然 <sup>オ</sup> <sup>オ</sup> <sup>オ</sup> <sup>オ</sup>  
 夫の心が薄情ギヤと  
 みえて女房が毎日々々  
 オ <sup>オ</sup> ヤウ

終止 <sup>オ</sup> <sup>オ</sup> <sup>オ</sup> <sup>オ</sup>  
 年ぐとりののいとめ  
 やうんをみオイマス

連体 <sup>オ</sup> <sup>オ</sup> <sup>オ</sup> <sup>オ</sup>  
 年ぐとりののいとめ  
 物ギヤあまのあま

已然 <sup>オ</sup> <sup>オ</sup> <sup>オ</sup> <sup>オ</sup>  
 おまり心配をなれ  
 らそこの兩三年オイ

良 中行 二段

將然 <sup>オ</sup> <sup>オ</sup> <sup>オ</sup> <sup>オ</sup>  
 さむい風がうくや  
 二階からオ <sup>オ</sup> ヤウ

終止 <sup>オ</sup> <sup>オ</sup> <sup>オ</sup> <sup>オ</sup>  
 只今二階の御用  
 ミ次第子とオイマス

連体 <sup>オ</sup> <sup>オ</sup> <sup>オ</sup> <sup>オ</sup>  
 二階の萬事不自由  
 ギヤとみえてあれ

已然 <sup>オ</sup> <sup>オ</sup> <sup>オ</sup> <sup>オ</sup>  
 二階のイヤギヤ  
 のとててて下まで

阿 下行 二段

將然 <sup>オ</sup> <sup>オ</sup> <sup>オ</sup> <sup>オ</sup>  
 今年の商法を  
 してたくさん <sup>オ</sup> 利を

終止 <sup>オ</sup> <sup>オ</sup> <sup>オ</sup> <sup>オ</sup>  
 商法がよむら利を  
 エマス

連体 <sup>オ</sup> <sup>オ</sup> <sup>オ</sup> <sup>オ</sup>  
 商法がよむら利を  
 このやうに利をエル

已然 <sup>オ</sup> <sup>オ</sup> <sup>オ</sup> <sup>オ</sup>  
 商法がよむら利を  
 大利をエタガマア

連用 <sup>オ</sup> <sup>オ</sup> <sup>オ</sup> <sup>オ</sup>  
 商法をよむら利を  
 今年八月から利を

連用 <sup>オ</sup> <sup>オ</sup> <sup>オ</sup> <sup>オ</sup>  
 商法をよむら利を  
 今年八月から利を

連用 <sup>オ</sup> <sup>オ</sup> <sup>オ</sup> <sup>オ</sup>  
 商法をよむら利を  
 今年八月から利を

連用 <sup>オ</sup> <sup>オ</sup> <sup>オ</sup> <sup>オ</sup>  
 商法をよむら利を  
 今年八月から利を

五言五句五言五句



加 行 下 二 段

將然	うむ ④ ムヤウ
連用	うむ ④ ムヤウ
終止	品物ギヤからムヤウ
連体	誠にあるがとる御心 ぎしギヤこそこの丸 やうにウケルワイ
已然	品物ギヤからこそ キノドクヤからウケ タカマア

將然	ヤセム ④ ヤセマ
連用	ヤセム ④ ヤセマ
終止	夏にろうとつりの くせでヤセマス
連体	くせギヤふよて夏 にやうとこそこのや うふヤセルワイ
已然	夏がきたまどろそ アタクハヤセタカ マア

將然	ムヤウ ④ ムヤウ
連用	ムヤウ ④ ムヤウ
終止	きたむのりのギヤ からステマス
連体	ムらぬりのギヤから こそこのやうにステ ルワイ
已然	きたむのりのギヤと 思ふこそをきれたど ステカカマア

將然	ムヤウ ④ ムヤウ
連用	ムヤウ ④ ムヤウ
終止	きたむのりのギヤ からステマス
連体	ムらぬりのギヤから こそこのやうにステ ルワイ
已然	きたむのりのギヤと 思ふこそをきれたど ステカカマア

多 行 下 二 段

將然	ムヤウ ④ ムヤウ
連用	ムヤウ ④ ムヤウ
終止	きたむのりのギヤ からステマス
連体	ムらぬりのギヤから こそこのやうにステ ルワイ
已然	きたむのりのギヤと 思ふこそをきれたど ステカカマア

將然	ムヤウ ④ ムヤウ
連用	ムヤウ ④ ムヤウ
終止	きたむのりのギヤ からステマス
連体	ムらぬりのギヤから こそこのやうにステ ルワイ
已然	きたむのりのギヤと 思ふこそをきれたど ステカカマア

將然	ムヤウ ④ ムヤウ
連用	ムヤウ ④ ムヤウ
終止	きたむのりのギヤ からステマス
連体	ムらぬりのギヤから こそこのやうにステ ルワイ
已然	きたむのりのギヤと 思ふこそをきれたど ステカカマア

將然	ムヤウ ④ ムヤウ
連用	ムヤウ ④ ムヤウ
終止	きたむのりのギヤ からステマス
連体	ムらぬりのギヤから こそこのやうにステ ルワイ
已然	きたむのりのギヤと 思ふこそをきれたど ステカカマア

吾輩古語指掌



波 下行 二 段 麻 下行 二 段

將然 <small>そ</small> ① <small>ヒ</small> ① <small>ヤウ</small>	終止 <small>そ</small> ② <small>ソ</small> <small>ヘ</small> <small>マス</small>	連体 <small>そ</small> ③ <small>ソ</small> <small>ル</small> <small>ワイ</small>	已然 <small>そ</small> ④ <small>ソ</small> <small>カ</small> <small>マア</small>
此度の狂言はよく出 来た狂言や世間で 小(メ)ヤウ 連用 <small>ほ</small> ⑤ <small>た</small> <small>ち</small> <small>ち</small>	品物がまぐ 一品ソヘマス	品物がまぐをうら これのやうソル ワイ	品物が不足シヤから こそあのやうな物 まもソヘタガマア
連用 <small>そ</small> ⑥ <small>お</small> <small>ち</small> <small>ち</small>			
進物がまぐ 又一品をそ ①ヤウ			
將然 <small>ほ</small> ⑦ <small>ホ</small> ① <small>ヤウ</small>	終止 <small>ほ</small> ⑧ <small>ホ</small> <small>ン</small> <small>マス</small>	連体 <small>ほ</small> ⑨ <small>ホ</small> <small>ル</small> <small>ワイ</small>	已然 <small>ほ</small> ⑩ <small>ホ</small> <small>カ</small> <small>マア</small>
此度の狂言はよく出 来た狂言や世間で 小(メ)ヤウ 連用 <small>ほ</small> ⑪ <small>た</small> <small>ち</small> <small>ち</small>	狂言がまぐ らホヘマス	狂言がまぐをうら ハ誰もねらドとぞ あまあのやうにホ ルワイ	見て狂言がよけ バこそ大さうホ タガマア

也 下行 二 段 良 下行 二 段

將然 <small>き</small> ⑫ <small>キ</small> ④ <small>ヤウ</small>	終止 <small>き</small> ⑬ <small>キ</small> <small>エ</small> <small>マス</small>	連体 <small>き</small> ⑭ <small>キ</small> <small>ル</small> <small>ワイ</small>	已然 <small>き</small> ⑮ <small>キ</small> <small>タ</small> <small>ガ</small> <small>マア</small>
春の雪がうら たが春ふるうら キ ①ヤウ 連用 <small>き</small> ⑯ <small>ち</small> <small>ち</small>	あつてうら雪が キエマス	春の雪はあつても うらあれあれ うふキエルワイ	春はあつても 高山のゆきもだん キエタガマア
將然 <small>か</small> ⑰ <small>カ</small> ④ <small>ヤウ</small>	終止 <small>か</small> ⑱ <small>カ</small> <small>レ</small> <small>マス</small>	連体 <small>か</small> ⑲ <small>カ</small> <small>ル</small> <small>ワイ</small>	已然 <small>か</small> ⑳ <small>カ</small> <small>レ</small> <small>タ</small> <small>ガ</small> <small>マア</small>
冬にうらうら草 がカレマス	霜があつても なれこれのやうに カレルワイ	鳥やうのなほどの 草も霜があつても こそあつかもなく カレタガマア	
連用 <small>か</small> ㉑ <small>ち</small> <small>ち</small>			
あつて草も冬来 なれこれのやうに カレマス			

良部六言才掌



和行下二段加行變格

將然 <sup>①</sup> ウ <sup>②</sup> ヤ <sup>③</sup>	早苗が大きなのびて きく一兩日のうち う <sup>④</sup> ヤウ	連用 <sup>⑤</sup> ウ <sup>⑥</sup> ヤ <sup>⑦</sup>	早苗がうまごうにうつ たヤヤ吉日や今日も う <sup>⑧</sup> ヤウ <sup>⑨</sup> めマス
終止 <sup>⑩</sup> ウ <sup>⑪</sup> マス	日からもよゆう早 苗をウエマス	連体 <sup>⑫</sup> ウ <sup>⑬</sup> ヤ <sup>⑭</sup>	水が十分小行もろ たよほどとても苗を あまあのちうのウエ ルワイ
已然 <sup>⑮</sup> ウ <sup>⑯</sup> マス	上手の早少女をい くそこの田はよくウ エタガマア	連体 <sup>⑰</sup> ウ <sup>⑱</sup> ヤ <sup>⑲</sup>	庭ちちとつゆの ハカううーのま ガヤ雨のあま あまあのちうの クルワイ
將然 <sup>⑳</sup> ウ <sup>㉑</sup> ヤ <sup>㉒</sup>	あの人の何とて このやうふあま のヤヤきりも 今よ <sup>㉓</sup> ヤウ	連用 <sup>㉔</sup> ウ <sup>㉕</sup> ヤ <sup>㉖</sup>	道がうらうら 我が家つへ人の きくうういマス
終止 <sup>㉗</sup> ウ <sup>㉘</sup> マス	出たうらうら ら我が家つへ人 がううキマス	連体 <sup>㉙</sup> ウ <sup>㉚</sup> ヤ <sup>㉛</sup>	かゝる人の別段が ヤ年がううても毎 日のつとめを まあのちうのウ ルワイ
已然 <sup>㉜</sup> ウ <sup>㉝</sup> マス	やうくのこも こもこもま キタガマア	連体 <sup>㉞</sup> ウ <sup>㉟</sup> ヤ <sup>㊱</sup>	かゝる人の別段が ヤ年がううても毎 日のつとめを まあのちうのウ ルワイ

佐行變格

將然 <sup>①</sup> ウ <sup>②</sup> ヤ <sup>③</sup>	まゝのいごま たいごちヤア ドウ <sup>④</sup> ウ	連用 <sup>⑤</sup> ウ <sup>⑥</sup> ヤ <sup>⑦</sup>	運のまゝのい まゝごま で一生つとま ①まてマス
終止 <sup>⑧</sup> ウ <sup>⑨</sup> マス	よゝ人とつかりの 別段のいごま まゝごま	連体 <sup>⑩</sup> ウ <sup>⑪</sup> ヤ <sup>⑫</sup>	患苦をちつて ガル君ハ別段が ヤ遠路をも歩 行てあまあの ちうのウエ ルワイ
已然 <sup>⑬</sup> ウ <sup>⑭</sup> マス	患苦をちつて ふ君なまごま このやうな國 でもオハシタ ア	連体 <sup>⑮</sup> ウ <sup>⑯</sup> ヤ <sup>⑰</sup>	患苦をちつて ガル君ハ別段が ヤ遠路をも歩 行てあまあの ちうのウエ ルワイ
將然 <sup>⑱</sup> ウ <sup>⑲</sup> ヤ <sup>⑳</sup>	御たちあま てびの日敷も つりやうたの ごらんごらん ハ <sup>㉑</sup> ウ	連用 <sup>㉒</sup> ウ <sup>㉓</sup> ヤ <sup>㉔</sup>	遠路をもつが なく御着て あまのちうの ①ウエマス
終止 <sup>㉕</sup> ウ <sup>㉖</sup> マス	我君ハ只今この まゝのウエ マス	連体 <sup>㉗</sup> ウ <sup>㉘</sup> ヤ <sup>㉙</sup>	患苦をちつて ガル君ハ別段が ヤ遠路をも歩 行てあまあの ちうのウエ ルワイ
已然 <sup>㉚</sup> ウ <sup>㉛</sup> マス	患苦をちつて ふ君なまごま このやうな國 でもオハシタ ア	連体 <sup>㉜</sup> ウ <sup>㉝</sup> ヤ <sup>㉞</sup>	患苦をちつて ガル君ハ別段が ヤ遠路をも歩 行てあまあの ちうのウエ ルワイ

五部系下活言部活言



奈 行 變 格

將然 <small>い</small> <small>あ</small> <small>む</small> <small>イ</small> <small>ウ</small>	連用 <small>い</small> <small>あ</small> <small>む</small> <small>イ</small> <small>ウ</small>	終止 <small>い</small> <small>あ</small> <small>む</small> <small>イ</small> <small>マス</small>	連体 <small>い</small> <small>あ</small> <small>む</small> <small>イ</small> <small>ニス</small>	已然 <small>い</small> <small>あ</small> <small>む</small> <small>イ</small> <small>カ</small>
そのやうに慕ふ ちうのじかふ なつてそい	足よむぢややど になが道中の いづま	けあゆりの こぞ故郷イ ニマス	長旅あつても と見えすく の體であま のやうニス	かこちりく はるそ遠路の とろもイダ ガマア
將然 <small>あ</small> <small>む</small> <small>シ</small> <small>ウ</small>	連用 <small>あ</small> <small>む</small> <small>シ</small> <small>ウ</small>	終止 <small>あ</small> <small>む</small> <small>シ</small> <small>マス</small>	連体 <small>あ</small> <small>む</small> <small>シ</small> <small>ニス</small>	已然 <small>あ</small> <small>む</small> <small>シ</small> <small>カ</small>
下ろす病 やうてとて ならぬやや シウ	いやり病は おりのぢや多く の人ダ	あの人病 つたぢや シニマス	ついで人も病 でんちう あまのやう ニスルワイ	病をいふ よい人でも ガマア

良 行 四 段 一 格

將然 <small>あ</small> <small>む</small> <small>ア</small> <small>ウ</small>	連用 <small>あ</small> <small>む</small> <small>ア</small> <small>ウ</small>	終止 <small>あ</small> <small>む</small> <small>ア</small> <small>マス</small>	連体 <small>あ</small> <small>む</small> <small>ア</small> <small>ル</small>	已然 <small>あ</small> <small>む</small> <small>ア</small> <small>カ</small>
氣をいんでも別 よのこら のまてア	あめせが 志たてよ つきマス	あめせが 志たてよ つきマス	わたりの身分 ありがた 今も繁昌 のやうにアル	運がよけ よの志あり タカマア
將然 <small>あ</small> <small>む</small> <small>ア</small> <small>ウ</small>	連用 <small>あ</small> <small>む</small> <small>ア</small> <small>ウ</small>	終止 <small>あ</small> <small>む</small> <small>ア</small> <small>マス</small>	連体 <small>あ</small> <small>む</small> <small>ア</small> <small>ル</small>	已然 <small>あ</small> <small>む</small> <small>ア</small> <small>カ</small>
いかに居て 帝が あむら	あめせが 志たてよ つきマス	あめせが 志たてよ つきマス	御召の 出も のやうにアル	御召が くはひ ガマア

五口



形状言俗解

連用	あき①わのふ	そぞろも不實ぢや からこぢもあき① わりのマア
終止	あき①アヤ	ぞろく骨をぬを こま心ぎうがアサ イヂヤ
連体	あき①アヤ	事が成就せまうのこ ろろがうがあまの やうにアサイワイ
已然	あき①アヤ	氣がうつりやまけと バこそあの人を ぎうがアサイガマア

活	連用	あか①たのむ	あをくはぬぢや ありあふも しあふ①たのむ
用	終止	あか①アヤ	あの中へ骨を こま心ぎうがアサ イヂヤ
志	連体	あか①アヤ	事なちちまら成 就まらやう ぎうがあまのやう ふアサイワイ
く	已然	あか①アヤ	うまらつたあま こそあの人ハ ぎうがアサイガマア
し	連用	あき①あ	久しうありぬぢや ありあふも ありあふ①あ
	終止	あき①アヤ	久しうありぬぢや ありあふも ありあふ①アヤ
	連体	あき①アヤ	久しうありぬぢや ありあふも ありあふ①アヤ
	已然	あき①アヤ	久しうありぬぢや ありあふも ありあふ①アヤ

吾言古言百



志き活用

連用 <small>かな</small> と <small>おひ</small> 情 <small>に</small> せ <small>ま</small> れ <small>ば</small> 涙 <small>ぎ</small> 不 <small></small> とて <small>お</small> え <small>と</small> あ <small>ひ</small> マス	終止 <small>かな</small> と <small>カナイ</small> 情 <small>に</small> せ <small>ま</small> れ <small>ば</small> カ <small>ナ</small> シ イ <small>ヤ</small>	連体 <small>かな</small> と <small>カナイ</small> 情 <small>に</small> せ <small>ま</small> れ <small>ば</small> これ <small>の</small> やう <small>に</small> カ <small>ナ</small> シ <small>イ</small> ワイ	已然 <small>かな</small> と <small>カナイ</small> 情 <small>に</small> せ <small>ま</small> れ <small>ば</small> と <small>て</small> わ <small>ら</small> い <small>の</small> う <small>ら</small> う <small>カ</small> ナ ミ <small>イ</small> ガ <small>マ</small> ア
--	--	---	--

形状言ろーき活用の詞の志る一ふ本書活語の條下ふクシ  
 〓キ〓シ〓ク〓シ〓シ〓キと志る一たりの省畧せるあくク〓シ〓キ〓ケレ、  
 〓シ〓ク〓シ〓シ〓キ〓シ〓ケレとつづくまなまじらもとていあまりこと  
 志げくわらなとて〓つ〓ら〓ち〓ひ〓ま〓い〓と〓あ〓ら〓と〓あ〓い〓心得とえ

るべし

〇この書本書活語の條下ふ志らせる活用をたやまくとととと  
 ひとそあく圖ふあらをせりこれを〓く〓あ〓ま〓ら〓を〓てのち  
 別記を〓ら〓べ〓り別記を〓ら〓ん〓あ〓ま〓ら〓ら〓む〓ら時ハ詞の活用コト  
 辭ニ〓テ〓ラの運用とら〓ふ〓あ〓ま〓ら〓ら〓め〓ふ〓志〓ら〓る〓なり



言解治説抄掌

編輯權助木村正辭  
權少外史横山由清  
總裁

岡本保孝  
神祇大錄  
小中村清矩

榊原芳野  
同撰

黑河真頼  
間宮永好  
塙忠韶

明治十六年九月三十日  
同 年十月  
翻刻御届  
出版

大阪府平民  
翻刻出版人  
梅原 龜七

東區備後町四丁目  
十一番地

全發賣書肆  
全  
大村安兵衛

東區淡路町二丁目  
十八番地

Yoshi-tu  
770



